

出張肝臓病教室in中学校・高等学校

肝疾患連携相談室 看護師 平野 哲子

B型・C型肝炎ウイルスは血液や体液を介して感染します。一般的な感染原因としては、覚せい剤乱用時の汚染針使用や入れ墨、汚染したピアスの穴開け器具使用、性感染などが挙げられます。最近では、ファッションでボディーピアスやタトゥー、アートメイクをする人も増えており、若者への感染拡大が危惧されています。そんなこともあり、今年度、中学生と高校生に「ピアスやアートメイクに潜む危険性」を理解してもらい、その家族にも肝炎ウイルス検査に対する啓発を行うために、肝臓専門医による『出張肝臓病教室in中学校・高等学校』を企画しました。

静岡県教育委員会を通じて各市・町の教育委員会及び県立高等学校に案内を出したところ、県内13の中学校・高等学校から出張依頼がありました。当初、薬学講座として4月～7月の講演依頼が多かったのですが、新型コロナウイルス感染症の影響で秋に延期する学校が多い状況下、6月15日(月)に同イベントを初めて開催することができました。



静岡県立伊東高校では体育館に3年生を150人集め、ソーシャルディスタンスにも配慮しながら50分間の講演が行われました。今回は初回ということで内容が十分に伝わるか不安もありましたので、講師をされる川田先生も若者への講演ということを意識して、スポーツ選手のタトゥー事情や芸能人のピアスなどについても例に出しながら話を進めていました。実際には、肝炎ウイルス、HBV・HCV、肝炎ウイルス検査、肝臓がんについての講演が行われました。午後の7時間目の授業ではありましたが、高校生が熱心に講師の話を聞いている姿が印象的でした。講義を聞いた高校生からは「ピアスやタトゥーといった一見関係のないことが原因と聞いて驚いた」「肝臓の重要性を初めて知った」「家族に検査を勧めたい」といった感想が多かったように感じます。一緒に講義を受けた教師からも、「今回の講演を通して肝炎ウイルスの知識習得はもちろんのこと、これからの生活をどう過ごしたらよいか考えるきっかけになったのではないか」と好評価をいただきました。

講演後のクイズアンケートの正解率でも「感染経路92%」「感染原因94%」と、ほぼ理解されたと判断できる結果でした。また、「将来タトゥー、アートメイクを入れたい」と答えた学生は7%、「将来ピアスをあけたい」とした学生は31%でした。「その際はどんなことに注意しますか?」という問いにも「病院でやる」「消毒したもの及び清潔な器具を使用する」という回答が多く、今回の講演が一定の注意喚起に繋がったものと考えます。

肝疾患連携相談室では、今後も肝炎に関する知識の普及を図り肝炎ウイルスによる肝がん予防に努めていきたいと思っておりますので「皆さんも肝炎ウイルス検査を受けましょう」。

